

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第73回

当社の支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第73回目は、日本語解析技術を活かし視覚障害者向け製品を開発している株式会社日本テレソフト(千代田区)をご紹介します。時代を先読みし福祉分野で成果をあげている金子秀明社長にお話を伺いました。同社には、中小企業事業化支援ファンド(注1)やニューマーケット開拓支援事業(注2)等、公社事業を長期にわたり幅広くご利用いただいています。

「技術で解決できるものは、技術で」～開発力でビジネスを拓く～

株式会社日本テレソフト

モノづくりは素人でも
恵まれた人脈と鋭い感性で躍進

株式会社日本テレソフトは、点字プリンターを始め点字翻訳ソフトや点字ディスプレイ、拡大読書器など視覚障害者向け製品の製造販売会社である。

しかし、同社は最初から視覚障害者関連製品の事業を行っていたわけではなかった。

金子社長は情報通信分野で活躍する新聞記者だったが、情報分野市場が拡大し始めた昭和61年、知人の技術者数名とソフトウェア会社を設立した。設立当初の事業内容は、記者時代からの人脈を生かし郵政省(現総務省)や通商産業省(現経済産業省)関係から受託した地図システムや各種データベースのソフト開発、そして情報通信関係のオリジナルソフトの開発であった。それらの開発を通じて音声解析・言語解析の技術を蓄積したことが日本語文章解析ソフトの開発へと発展していった。

視覚障害者をサポートする人達を
サポートする技術

そんな折、世田谷区役所で視覚障害者へ情報提供している方から、外部委託した点字翻訳の内容を自分達では確認できず困っているという話を聞いた。そこで金子社長は、点字翻訳には文字を点に変換する決まったルールがあることから、同社の持つ解析技術を応用すれば点字



海外進出に積極的な金子秀明社長
(点字プリンター「DOG-Multi」とともに)

翻訳ソフトが出来ると考え、開発に着手した。結果、パソコンで文書を作成する感覚で点字文書を作成できる点字翻訳ソフト「ハートコミュニケーション」を商品化した。

さらに、点字印刷された図書や文書を逆にかな文字として読める点字スキャナを開発し、これが平成7年に「第7回中小企業優秀新技術・新製品賞」(あさひ中小企業振興財団・日刊工業新聞社主催)を受賞した。同社の技術力が優れていたことはもちろんだが、ユニバーサルデザインが注目され始めたという時流に上手く乗ることが、同社の成長・発展を後押ししたといえる。

さらにその後、同社の主力製品となる点字プリンター「DOG-Multi」を製品化した。この製品の一番の特長は点字と墨字を同時印刷できることで、晴眼者(視覚に障害のない人)も視覚障害者も共に読むことができる。教科書、役所からの文書や、視覚障害の患者さんに渡す薬の説明書に点字と墨字を並列印字することで、利用者から「とても便利」と好評だ。

また、同社独自のオルゴールのようなドラムを使う偏心圧力方式(特許)により、点字プリンター特有の騒音が軽減され、従来は点字印刷専用の防音室を用意するか、学校や施設等では、騒音を避けるために人のいない早朝に印刷をするしかなかったものが、今では家庭やオフィスでの使用まで可能になった。

公社支援メニューの積極的活用

それまで自社のような小規模企業では他者からの支援は受けられないと(勝手に)思い込んでいた金子社長だったが、前述した「中小企業優秀新技術・新製品賞」を受賞したことで、その後は公的機関の支援策を常にリサーチし、積極的に活用するようになった。

平成14年には、公社の新製品・新技術開発助成事業にて、英語や中国語はもちろんのことアラビア語など32言語・地域に対応できる多言語点字プリンターの開発に取り組み、翌年(平成15年)には、この製品の技術、商品性の両面が高く評価され、東京都ベンチャー技術大賞「特別賞」を受賞するまでになっている。

さらに、ニューマーケット開拓支援事業の支援対象製品となったことで、公社事業を幅広く継続的に利用するようになった。展示会出展費用を助成する市場開拓支援助成事業や、技術や経営の課題解決に専門家が企業を訪問する専門家派遣事業、商品の商標登録については知財相談等、同社の発展とともに公社事業をうまく活用している。「東京都や公社から新しい施策が出され、企業の公募などお誘いがあった時は、なんでも参加してご縁を広げた」(金子社長)という。

こうした公社や東京都の支援を受けることで製品の信用力が向上し、学校や病院、自治体等の公的な機関への商談がスムーズになるとともに、点字プリンター以外の製品の販売も容易になった。

海外展開 ～ひろがる世界の販売網～

販売当初は年間300～400台は販売していた点字プリンターも、発売から10年余りが経過した現在では、国内の販売台数は年間200台前後で落ち着いてきている。

「福祉機器分野の国内市場には限りがある。価格を安くして台数も増やすには日本だけでなく、海外でも販売してスケールメリットを追求するしかない」と話す金子社長は、実は早くから製品の輸出について視野に入れていた。

海外進出を始めた今から10年程前には、点字文字や紙のサイズの違いや、国内とは違う安全規格や基準への対応に戸惑ったという。しかし現在では、同社の「Gemini」(「DOG-Multi」と基本仕様が同じ海外向け)シリーズは多言語に対応し、点字・墨字が同時に印刷できる独特の機能で、点字プリンターでは世界最大手のイーネープリング・テクノロジー社(アメリカ)をはじめ世界各地で代理店契約を交わし販路拡大を図っている。



製品展示の様子
(手前のポスターは点字ディスプレイ「SEIKA」)

また、中国の清華大学と視覚障害者のパソコン利用に欠かせない点字ディスプレイの共同開発を行い、製品名「清華(Seika)」として世界中に販売している。また、ベトナムでは、

公社の海外販路開拓支援事業(注3)のサポートを受けるとともに、ベトナム語対応の点字ソフトをホーチミン工科大学と共同で開発し

た。これは、日本政府のODAに採用され、ベトナム盲人協会に点字プリンターシステム1式として贈呈された。英語などの他言語を介さずベトナム語で文書作成・点字印刷ができるため使いやすく、特に障害者の教育や就業支援に幅広く活用できると期待されている。

The printer outperforms others efficiency to simultaneously print braille embosser and ink print lines. Combining a built-in braille function and dot printer it enables to read alphabetic text printed parallel to the embossed braille

プリンターです。
墨字もひらがな・カタカナは漢字かな混じり文書も印刷できますので、用途によって形態を変えることができます。

点字と墨字を同時に印刷

ニッチな市場の高まるニーズに応える

成熟した点字プリンターの国内市場にも、実はまだ潜在ニーズがある。具体的には金融機関向けの「点字通帳」や携帯電話、クレジットカード利用明細等があり、これは、ゆうちょ銀行他で一部採用されている。また、点字を指で読む代わりに音声化するシステムの開発や商品化を行い、ハードとソフトの両面に強い福祉機器会社として他社との差別化を図っている。

さらに、視覚障害者だけでなく弱視の人や高齢者向けに、書類や本等を電子的に拡大して読みやすくする拡大読書器を輸入販売する等、市場の狭い福祉機器分野でも商品構成を充実させる一方、世界に販売網を広げることで事業の安定と発展に期待が持たれる同社である。

(企画課 野口美奈子)

- (注1) 中小企業事業化支援ファンド:
新製品・新技術の開発等による新規事業の展開に取り組んでいる都内中小企業に対して資金支援を継続的に支援する事業(平成23年12月をもって新規投資は終了している)
- (注2) ニューマーケット開拓支援事業:
都内中小企業の優れた製品・技術を商社・メーカー等に紹介し、販路開拓を支援する事業
- (注3) 海外販路開拓支援事業(旧・海外展開自立化支援事業):
貿易実務経験等への不安から海外展開を躊躇している中小企業に対して様々な角度から支援する事業

.....
企業名: 株式会社日本テレソフト
代表者: 金子 秀明
資本金: 4,260万円 従業員数: 12名
本社所在地: 東京都千代田区麹町1-8-1
半蔵門MKビル1階
TEL: 03-3264-0800
FAX: 03-3264-0880
URL: <http://www.nippontelesoft.com>
